

下京雅学校だより

全国学力・学習状況調査分析

令和7年8月 京都市立下京雅小学校

<めざす子ども像>

すすんで考え、学び続ける子ども

ともに学びあい、高め合う子ども

自分を信じ、前向きにたくましく生きる子ども

4月17日(木)・22日(火)に、本校6年生を対象に実施しました「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査では、国語・算数・理科の学科テストと合わせて、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されました。全体の傾向や課題等、本校の子どもたちの状況をお伝えさせていただきます。

国語科

全国および京都府の公立小学校の平均正答率を上回る結果となりました。特に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった『思考力、判断力、表現力』の観点において、よい結果が見られました。

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかを見る記述式の問題【大問3三(2)】で課題が見られました。

文章中の情報と図表(例:グラフ、表、フローチャートなど)を照らし合わせて、目的に応じた情報を選んで、説明する力が求められます。また、二つの条件に合わせて書く力も求められています。

もう一度、問題の解き直しをして課題を克服すること、短い記述から少しずつ練習して記述式の問題に慣れることが大切です。

全国的に、国語以外の教科でも「文章と図表を関連付けて情報を活用する力」に課題が見られたことが報告されています。また、記述式の問題についても正答率が低い傾向にあるようです。

【情報を使って説明すること、記述力などを高めるために】

- ① 新聞記事、統計資料、教科書外の資料などから多様な図表に触れる機会を増やし、図表を読み取る力をつけよう。
- ② 「この図表は何のためにあるのか?」と考え、図表の意味や図表と文章を関連付ける練習をしよう。
- ③ 国語科を中心に、文章の要約、説明文や意見文を書くことを通して、情報を整理して書く練習をしよう。
- ④ ペアやグループでの話し合い活動、家庭での会話を通じて、考えを言葉にして話す機会を増やそう。



算数科

全国および京都府の公立小学校の平均正答率を大きく上回る結果となりました。全体的によくできていますが、分母の異なる分数のたし算について答える記述式の問題については、課題が見られる結果となりました。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

これは、分母が違う分数のたし算において、共通のもとにする数を見つけ、それぞれの分数が何個分かを理解する力を問う問題です。

答えは、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ のもとにする数を同じ数にする時、その数は

$\frac{1}{12}$ になります。 $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{12}$ の9個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{12}$ の8個分です。となります。

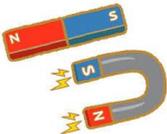
この計算では、分母の最小公倍数(12)を使って、 $\frac{1}{12}$ をもとにする数とする必要があります。単に通分して解くだけでなく、他の問題においても「なぜそうするのか」「何を意味しているのか」を考える習慣をつけていくとよいですね。



理科

全国および京都府の公立小学校の平均正答率を上回る結果となりました。全体的によくできていますが、アルミニウム、鉄、銅などの身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかをみる問題については、課題が見られました。

「電気を通す／通さない」「磁石に引き付けられる／引き付けられない」物の復習をしましょう。「これは電気を通すから、電線に使われているんだね」など、実生活とのつながりも考えてみるとよいですね。



児童質問紙調査より 〔学習意欲、学習方法、学習環境および家庭生活の諸側面等に関する質問紙調査です〕

- ・自分には、よいところがあると思いますか。
- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
- ・人が困っているときは、進んで助けていますか。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- ・学校に行くのは楽しいと思いますか。etc.



左記の質問事項については、「当てはまる」や「どちらかといえば、当てはまる」の回答率が、全国や京都府の公立小学校の回答率を上回っていました。本校の児童は、ある程度の自己肯定感をもっていたり、現在の学校生活におおよそ満足できていたりしている様子が伺えます。



とりわけ、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問については、6年生全員が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答していました。この結果は、子どもたちが他者を思いやり、社会の一員として貢献したいという意識をしっかりと持っていることを示しており、大変心強く、嬉しい成果です。これまでの道徳教育や学級活動、家庭での声かけなどが、子どもたちの心にしっかりと根づいていることの表れだと感じています。

今後は、この「思い」を「行動」へとつなげていくことが大切です。学校では、プロジェクトやたてわり活動などの異学年交流を通して、子どもたちが実際に人の役に立つ経験を積み、自信につながられるよう支援していきます。ご家庭でも、「誰かのためにできることはあるかな?」「今日、誰かに優しくできた?」など、日々の会話の中で子どもたちの思いやりの心を育てていただければと思います。

気になります…

- ・読書は好きですか



こちらの質問については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答率が全国平均を下回っていることがわかりました。読書は、語彙力や表現力を育てるだけでなく、想像力や感性を豊かにし、心を育てる大切な活動です。

学校では、メディアルームの活用、読み聞かせやおすすめ本の紹介など、読書を楽しむ活動を通して、子どもたちが「本って面白い!」と感じられるような取り組みを進めていきたいです。

ご家庭でも、ぜひ「最近読んだ本は?」「どんなところが面白かった?」など、読書について話す時間を持っていただけると嬉しいです。親子で一緒に本を選んだり、読書の感想を共有したりすることで、読書への親しみが深まります。

- ・将来の夢や目標を持っていますか

こちらの質問については、昨年度に引き続き全国平均を下回っていることがわかりました。この結果から、子どもたちが自分の将来に対して十分なイメージを持てていないことや、自分の得意なこと・好きなことを見つける機会が不足しているのではないかと考えられます。

学校では、総合的な学習の時間や学級活動を通して、子どもたちが自分自身を見つめ、夢や目標を描けるような取り組みを進めていければと思います。

ご家庭でも、「将来どんなことをしてみたい?」「今好きなことは何?」など、日々の会話の中で夢や目標について話す時間を持っていただくと、子どもたちの意欲や自己肯定感の向上につながります。今後とも、学校と家庭が連携しながら、子どもたちの未来を支えていければと思います。



保護者のみなさまへ

本調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、また、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣が基盤となります。今後も、学校・家庭・地域が連携し、子どもたち一人一人が未来に希望をもち、自分の夢に向かって自ら道を切り拓いていく力をつけていきたいと考えています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。